

二期倫理部会 第六回会合

日 時： 2019年9月21日

会 場： 聖心女子大学 聖心グローバルプラザ

【話題提供 1】

ダボス会議での出来事

Aさん

1. 1.5°C上昇に収める世界のため－Davosでのグレタの要求（1/21）

- ・世界は火事場になっているので、2030年、50年、いや2021年までだって待ってられない。
- ・必要なのは「低炭素経済」「低めの排出」や「ネット・ゼロ」ではなく、「真のゼロ」だ。今日のような高排出があと数年でも続いたら、世界に残されている炭素予算は使い尽くされてしまう。
- ・持続性の観点からは、右翼も左翼も中道も、皆失敗した。いかなる政治的なイデオロギーも経済構造も、気候や環境の危機に取り組み、結合的で持続可能な世界を構築することはできない。
- ・化石燃料の探査や掘削へのすべての投資を直ちに止めよ。化石燃料への融資を直ちに、そして完璧に引き上げよ。
- ・あなた方は、私たちの要求はあまりに過大であり、ナイーブすぎると思うだろうが、しかしこれは、持続可能な世界への転換に急いで進むためには、最小限の努力にすぎないのだ。
- ・私たちの家は今でも火事になっている。大人のあなた方が行動しないことは、時々刻々と火に油を注いでいることになる。私たちはあなた方が、あたかも他の何よりも子供達を愛しているように、行動すべきと言っているのだ。

気候科学信頼 日本25%

スイス・研究所調査 世界平均50%超

スイスのシンクタンク「世界経済フォーラム」(WEF)が気候科学への信頼度について世界30カ国で調査したところ、科学者の発言や研究成果などについて「非常に」「かなり」「信頼している」と答えた人は、日本では25%にとどまった。30カ国の回答者の平均は57%で、気候変動対策に

に次ぐ低さだった。環境と経済の関係について、全体では「経済成長が鈍化しても環境優先」との回答が38%で、「環境を多少犠牲にしても経済成長優先」(20%)を上回った。日本は「環境優先」との回答が22%にとどまり、30カ国中最も少なかった。

世界自然保護基金(WWF)ジャパンの小西雅子・専門ディレクターは「日本では気候科学そのものへの信頼度が低いというよ

り、温暖化の不確実性を強調する意見が根強いことが背景にあるのではないか。英語の報告書や論文が分かりやすい形で報道されにくく、市民が最新の科学の情報を親しみにくいことも「因だろ」と話す。【大場あい】

<Aさん話題提供について>

- グレタは経済成長はダメだと言っている。これについてどう考えるか？
- グレタの陰謀」という本まである。

- 日本は気候科学に対する信頼が低い。
 - ・ 科学一般ではない。
 - ・ 複雑系の科学は科学一般とは違う。

- これは戦後教育の問題点の表れなのではないか？
 - ・ 体制への信頼が揺らいだことへの反省がなかった。
 - ・ そのことが元で、日本では相手の考えを否定しないようにしてきた。
 - ・ 自分の考えを主張しないという思考方法の問題なのではないか？

- やっと、温暖化に対する理解が深まってきたところなのではないか？
- COP3の時よりも理解・関心は下がっているようにも見える。
- 環境どころではないという、生活に精いっぱいの人が増えている。
- 中間層が上下に分裂し、上方に何とかしがみついている人たちの下層が現状維持派になっている。
- 日本では温暖化が主要なトピックではないことを示しているのではないか。日本人はブームになっても時間が経つと忘れる。
- 日本人も自分で体験すればわかる（千葉県の場合など）
- 本当に、ここにいる皆はグレタさんに賛成なのか？ 彼女は経済成長を否定している。
- 成長と持続は両立しない。両立しないのなら経済の在り方自体を変えるべき。
- その話は重要だが、一般には広まらない。
- 炭素税など税の話はどうか？経済を変える第一歩になるのではないか。
- 防衛費はムダだ。その分を温暖化対応にまわせば、沢山のことができる。

<Bさん資料について>

- 営利株式会社を廃止するには法律が必要だが、そんなことをする政党はない。
- 成長を止められないのは制度ではなく、人の問題なのではないか？
- 協同組合にすることに何のメリットがあるのか、示す必要がある。
- バウンダリーが一定に維持されていれば、その中の活動主体は多様でいいのではないか。
- Bさん提案の4番目の「長期的には営利株式会社の制度を廃止する」を削除すればよいのではないか。

<アウトプットに向けて>

- 制度を変えずに今起きている「集合の誤謬」変えられるのだろうか。
- 市民目線で発信することが重要なのではないか。その一方で根本的な議論も必要。
- ローカルな体制を作って、危機に備える必要がある（食糧、エネルギー、・・・など）。

- いっぺんに全部はできない。
- その際は、原点に返ることが重要。幸福追求、平等など。
- 税を考えると、公正さも重要。
- 税制を変える。これは政治（国会）を変えることでもある。